

(様式1)

自己評価表(1枚目)

松山北高等学校中島分校

学校番号(22)

教育方針	自律・共同・誠実を重んじる学校生活を通じて、豊かな人間性と不屈の精神を養うとともに、個性と能力に応じた教育の徹底を図り、国家、社会に役立つ心身ともに健全な市民を育成する。	重点目標	社会貢献できる人材の育成 ― 感謝から自立と共生へ ― 1 基本的な生活習慣の確立を通して、自律心を育みます。 2 体験活動やボランティア活動の実施と部活動の充実により、豊かな人間性と社会性を育みます。 3 基礎・基本の定着を図るとともに、社会人基礎力を育みます。 4 能力・適性に応じたキャリア教育を推進し、生徒一人一人の進路希望を実現します。
------	---	------	---

領域	評価項目	具体的目標	評価	目標の達成状況	次年度の改善方針
学校経営	特色ある学校づくり	多様な生徒の適性・能力・進路に応じた教育課程を編成し、地域を生かした体験活動を行う。	B	令和4・5年度入学生のための教育課程を、生徒の現状に合わせて変更した。総合的な探究の時間では地域に根差した体験活動ができています。	新教育課程について、今後も分析や検討を続け、改善点があれば柔軟に対応する。
		教育活動全体を通して、基礎・基本の定着を図るとともに、豊かな人間性と社会性の育成に努める。	B	生徒による学校評価において「一人一人を大切にしている」の評価が、昨年度より0.2ポイント向上した。	基礎・基本の定着を図る丁寧な学習指導に加え、総合的な探究の時間の活動を中心に、地域の特色を生かした教育活動の充実を図る。
	保護者・地域との連携	学校案内、分校通信、ホームページ、生徒会誌「み津ばち」などで教育活動を積極的に発信する。	B	学校案内は見やすくわかりやすい、視覚に訴えるものになるよう工夫をした。HPの学校プログラムも毎日更新し、分校および中島のVRツアーについてもHP上で見られるようにした。	学校行事や生徒の取組について、今後も積極的に発信していきたい。生徒が作成するVRツアーについても、活動の範囲を広げていきたい。
		年間10日以上教育活動公開日を確保するとともに、来校者数の増加を図る。 A:10日以上 B:9日 C:8日 D:7日 E:6日以下 地域での奉仕活動や交流活動を年間10回以上実施する。 A:10回以上 B:9回 C:8回 D:7回 E:6回以下	A	公開授業を10日実施したほか、体育大会や文化祭も保護者に公開した。 忽那諸島の清掃活動や島内のイベント参加、高齢者に向けた年賀状やプレゼント作成等、ボランティア活動を中心に13回実施した。子どもから高齢者まで多様な年齢層との関わりを持つことができた。	公開期間以外の行事に関しては、保護者が参加しやすい日程を考慮し、学校での活動を見られる機会をさらに増やしたい。 地域の方々に見守られ、支えていただくことで学校活動が充実することへの気付きを促し、感謝の気持ちを持って、地域貢献し、地域を愛する心を育む活動を、今後も精力的に展開していきたい。
学習指導	教科指導の充実	一人一台端末の活用と個に応じた指導の工夫・実践により、分ける授業づくりに努め、生徒による授業評価4.0以上を目指す。 A:4.0以上 B:3.7~3.9 C:3.4~3.6 D:3.1~3.3 E:3.0以下	A	生徒による授業評価の「授業は分かるか」の項目で、全科目平均は4.5であった。	授業内容の精選や指導の工夫に努め、大学進学希望者が必要な学力を身に付けられるようにしたい。
		各種検定試験において、3級以上の資格取得率90%以上を目指す。 A:90%以上 B:89~80% C:79~70% D:69~60% E:59%以下	A	3年生は全員3級以上を取得することができた。2年生に関しても積極的に検定試験に挑戦するなど、努力したことが良い結果となり大きな自信となった。	各学年、全員で取り組む雰囲気づくりを継続させる。今後は生徒の個性や実力を見極めて、さらに上級にも挑戦させる。また、3種目以上1級取得を目指すしたい。
	家庭学習の充実	学習に対する意欲と態度を育て、個に応じた課題により、家庭学習1日2時間以上を確保する。 A:120分以上 B:119~100分 C:99~80分 D:79~60分 E:59分以下	A	調査期間中の家庭学習時間の平均は、142分で、数値目標に掲げている120分以上を達成することができた。	学習時間の少なかった1年生には、調査期間中の課題を設定したり、家庭学習の定着を促したりするなどの対応を行う。
生徒指導	基本的な生活習慣の確立	基本的な生活習慣の確立に努め、年間出席率95%以上を目指す。 A:95%以上 B:94~90% C:89~80% D:79~70% E:69%以下	B	2学期末までの出席率は、1年生93.2%、2年生95.7%、3年生96.8%、全体では94.8%であった。	例年3学期に欠席が増えるため、担任を中心に教職員全体で生徒の登校意識を高めるよう指導する。
		自分から気持ちの良いあいさつができる、時間を守る、けじめをつける、忘れ物をしない、清潔感のある身だしなみを心掛ける、清掃に真面目に自主的に取り組める生徒を目指す。	B	身だしなみに関して、同じ生徒が繰り返し指導されているが、毎日粘り強く指導をすることで少しずつ改善が見受けられた。清掃に関しては、与えられた役割を時間いっぱい取り組む姿勢が見られた。	学校と保護者との連携を常に図りながら、生徒に対して継続的に指導を行う。また、充実した学校生活が送れるように取り組み、「ルールを守って、明るく、楽しく、元氣よく」の指導を継続していく。
		生徒指導に関して、保護者に適切な情報発信を行い、家庭と学校の指導の緊密な連携を図る。	A	日頃から保護者とコミュニケーションを密に取ることで信頼関係ができ、生徒の小さな変化を見逃すことが少なくなってきた。また、情報モラルについても、外部の協力を得て指導の徹底を図っている。	個に応じた生徒指導をしつつ、常に生徒の様子を観察するとともに早期に心情を把握するように努める。生徒との信頼関係をしっかりと築く。早期発見・早期対応が大切であることを認識する。
	個人面接の充実	面接を学期ごとに一人3回以上(年間9回以上)行い、生徒の心情を把握し、生徒理解に努める。 A:9回以上 B:8回 C:7回 D:6回 E:5回以下	B	各学年による定期的な面談のほか、生徒に少しの変化があればリアルタイムで話を聞く体制ができつつある。また、支援員が加わることで、さらにその取組が充実してきた。	個に応じた生徒指導をしつつ、常に生徒の様子を観察するとともに、早期に心情を把握するように努める。生徒との信頼関係をしっかりと築く。
	交通安全指導の充実	生徒一人一人の交通安全への意識の高揚を図り、交通ルールの遵守に努めさせ、交通事故・違反ゼロを目指す。	B	交通ルールの遵守とマナーの向上に努めた結果、交通事故・違反ゼロであった。自転車保険の加入率は100%であった。ヘルメット着用の意識が少し低くなっているため、粘り強く指導を続けている。	来年度も交通事故ゼロを目指して、交通ルールの遵守とマナーの向上に努める。
教育相談・特別支援教育の充実	教職員及び保護者との緊密な連携と情報の共有を常に図り、一人一人の個に応じた支援体制を整えるとともに教職員の対応力を高める。	A	支援員や外部の関係機関にも協力を得て、学校の対応力をしっかりと高めることができた。また、教員間で共通理解を持って指導することができた。	保護者や外部の関係機関との連携をさらに図りながら、一人一人の現状をしっかりと把握し、改善と検討をできるだけ早期に行う。	

※ 評価は5段階(A:十分な成果があった B:かなりの成果があった C:一応の成果があった D:あまり成果がなかった E:成果がなかった)とする。

(様式1)

自己評価表(2枚目)

松山北高等学校中島分校
学校番号(22)

進路指導	進路指導委員会の充実	担任による進路面談後に進路研究会を全学年、各学期ごとに実施する。また3年生においては適宜追加実施し、早期に個別で適切な進路指導を行う。	B	学期毎に担任による進路面談を丁寧に行い、進路研究会を通して生徒の進路希望を全教員に周知した。学校推薦も進路指導委員会を通じて決定し、学校全体で進路実現を目指すことができた。	担任が進路面談を実施する際に、進路研修課から進路に応じた有用な資料を提示できるように、担任と連携を取っていきたい。
	進学・就職指導の充実	保護者との情報交換を丁寧に行い、個に応じたきめ細やかな指導を徹底し、希望者の進学・就職率100%を目指す。 A:100% B:99~90% C:89~80% D:79~70% E:69%以下 進路指導に関して、担任及び進路課長による面談を充実させ、面接や小論文などの受験指導を丁寧に行う。生徒と保護者に対して適切な情報発信を行い、進路実現に向けて家庭と学校の連携を図る。	B A	生徒・保護者との連絡を丁寧に行い、個に応じたきめ細かい指導を行うことができた。就職率は100%を達成し、進学に関しても全員が進学先を確保することができた。 担任による面談を丁寧に行った。生徒と保護者に対しても適切に情報発信を行い、進路実現に向けた家庭と学校の連携を図ることができた。	1年生の段階から進路に関する情報提供を適宜行い、生徒の進路選択の支援を行う。また、保護者と情報交換を密に行い、進路実現に向けて早期から計画的に指導する。 担任が、生徒・保護者と丁寧に関わり、面談状況の情報を学年団や教職員と共有することで、一人一人に合う適切な情報提供ができるようにする。
特別活動	特別活動の充実	部活動等に主体的、積極的に取り組む生徒の育成を目指すと共に協働的に取り組む態度を身に付けさせる。	A	生徒たちは環境美化に対しての意識が高く、清掃等の時間では校内の隅々まで最後まで取り組むことができた。今後も続けていきたい。	適材適所に清掃配置を行い、教職員と生徒が一体となって共に環境美化活動に積極的に取り組む。
		学校行事、生徒会活動、部活動等を通して心身を鍛え、充実感や達成感を感じ取らせるように努める。また、仲間と共に取り組む姿勢を身に付けさせる。	A	生徒会を中心に全員が一丸となって1年間を「やり切る」ことができた。生徒全員で取り組む雰囲気づくりができた。	今後も、今の学校行事等を常に見直し、生徒たちの意見も取り入れて、時代にふさわしい新しい活動の創出に積極的に取り組む。
同和・人権教育	人権・同和教育の充実	事前的資料配布や相談及び研究授業などを通して、人権・同和教育ホームルーム活動を充実させる。	C	クラス担任は人権・同和教育HR活動で、クラスや生徒の実情に応じた工夫が見られたが、担当係から事前的資料や研修の提示が不十分だった。	人権・同和教育HRの事前研修を充実させたり、教員の外部研修への参加を広く促したりすることで、教員の資質向上を図り、教材の工夫に繋げる。
		人権委員会活動、講演会、人権標語、人権ポスター等により、校内の人権啓発活動による人権意識の高揚を図る。	C	人権委員会活動、講演会等により、校内における人権啓発活動を行った。映画鑑賞会を企画したが、告知が不十分で成果を得ることができなかった。	映画鑑賞会などの委員会活動に関して、告知の仕方や他教員との連携など、もっと計画的・効果的に進めていきたい。
保健・安全管理	校内美化・環境整備の推進	適切な清掃配置を行い、巡視指導等により生徒一人一人の意識を高め、環境美化を図る。	A	生徒たちは環境美化に対しての意識が高く、清掃等の時間では校内の隅々まで最後まで取り組むことができた。今後も続けていきたい。	適材適所に清掃配置を行い、教職員と生徒が一体となって共に環境美化活動に積極的に取り組む。
		生徒と教職員による芝生・校内作業を毎月実施する。また、日頃から校内美化に努める姿勢をもたせる。	A	毎月の芝生・校内清掃活動及び、職員校内清掃作業等により、芝生や校庭の行き届いた管理ができた。	季節・天候を考慮しながら効率よく実施するとともに、継続して学校の顔である正門前を常に整備する。また、校内の除草も常に行う。
	保健管理の充実	実践力につながる「保健だより」を発行し、健康管理の徹底を図る。また、積極的に食育の推進に努める。	B	毎月の「保健だより」を発行することで、健康管理の徹底を図り、食育の推進に努めることができた。	毎月の「保健だより」を発行し、その時期に応じた適切な内容を提示することで、健康管理の徹底を常に図る。
	危機管理、安全管理の充実	学校安全に関する研修と定期的な点検、防災避難訓練の実施により、安全管理能力の育成に努める。また、日頃から防災に関する意識を常にもたせるようにする。	B	学校安全に関する研修と点検、防災避難訓練の実施により、安全管理能力の育成に努めることができた。	学校安全に関する研修と点検、防災避難訓練の実施により、安全管理能力の育成に努める。さらに、防災に対する意識を高めさせる。
業務改善	適切な勤務時間	教職員の負担軽減のために、業務の平準化、ICTを活用した情報共有などの効率化、及びテレワークの積極的な活用による時間の有効活用などワークライフバランスの実現を図る。	B	テレワークに関して、出張日や長期休業中の積極的な活用を呼びかけた結果、昨年度よりも多くの活用実績が得られるとともに、利用者も増加した。	テレワークの活用をさらに広め、ワークライフバランスの実現に努めたい。業務の平準化についても、業務の効果的な割り振りや学校行事の見直しを行うことで、進めていきたい。
	職場環境の整備	身の回りの整理整頓を心掛け、働きやすい職場環境づくりに取り組み、教職員の疲労や心理的負担の軽減を図る。	A	防犯、防災という観点から、主に職員室の整理整頓を行った。ロッカー内の資料等についても精選し、働きやすい環境づくりを行うことができた。	職員室や準備室、事務室等の整理整頓を継続的にを行い、不要物品等を廃棄していききたい。教職員の要望も聞き入れた働きやすい環境作りに貢献したい。

※ 評価は5段階(A:十分な成果があった B:かなりの成果があった C:一応の成果があった D:あまり成果がなかった E:成果がなかった)とする。